



グルタチオン製剤
タチオン[®]錠50mg
タチオン[®]錠100mg
タチオン[®]散20%

承認番号	錠50mg	14200AZZ05810000
	錠100mg	14200AZZ06126000
	散20%	21900AMX00063000
薬価収載	錠50mg・錠100mg	散20%
	1969年1月	2007年6月
販売開始	錠50mg・錠100mg	散20%
	1968年1月	1971年11月
再評価結果	1984年9月	

〔貯法〕
室温保存
(散：開封後は密栓して保存)
〔使用期限〕
ケース等に表示
(錠：製造後3年、散：製造後5年)

Tathion[®] Tablets 50mg・100mg, Powder 20%
(グルタチオン製剤)

***〔組成・性状〕**

販売名	タチオン錠 50mg	タチオン錠 100mg	タチオン散 20%
成分・含量	1錠中 日局 グルタチオン 50mg	1錠中 日局 グルタチオン 100mg	1g中 日局 グルタチオン 200mg
添加物	乳糖水和物、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、硬化油、軽質無水ケイ酸、ヒドロキシプロピルセルロース、精製白糖、アラビアゴム末、タルク、リン酸水素カルシウム水和物、カオリン、酸化チタン、カルナウバロウ		D-マンニトール、マクロゴール6000、グリチルリチン酸二カリウム、軽質無水ケイ酸
剤形・性状	白色の糖衣錠		白色の散剤
外形			
大きさ(mm)	直径：8.9 厚さ：4.3	直径：10.2 厚さ：5.9	
重量(mg)	244	452.6	
識別コード	CH306	CH307	

〔効能・効果〕

薬物中毒、アセトン血性嘔吐症(自家中毒、周期性嘔吐症)、金属中毒、妊娠悪阻、妊娠高血圧症候群

〔用法・用量〕

還元型グルタチオンとして、通常成人1回50~100mgを1日1~3回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

〔使用上の注意〕

1. 副作用

総症例数6,522例(経口投与1,750例、非経口投与4,772例)のうち、副作用が報告されたものは24例(0.4%)であり、その主なものは食欲不振、悪心・嘔吐、発疹等であった。

	0.1%未満
過敏症 ^(注)	発疹等
消化器	食欲不振、悪心・嘔吐、胃痛等

(注) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

2. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

〔薬物動態〕

〔参考〕

1. 血中濃度

ラットの胃内又は空腸に³⁵S-glutathione (³⁵S-GSH) を直接投与すると、³⁵S-GSHは小腸より速やかに吸収され、門脈血中にはほとんどがGSHのままの型で吸収される。また、血中でGSHは速やかに血清蛋白と結合し、その約70~80%が蛋白と結合している。¹⁾

2. 代謝、排泄

ラットに³⁵S-GSHを経口投与したとき、24時間までの尿中排泄率は18.3~38.8%であり、糞中には1.18%排泄された。²⁾ また、経口投与1時間後の尿中未変化体及び代謝産物の比率は未変化体、Cystein、GSSG及びその他の代謝物がそれぞれ14.3%、33.0%、11.5%及び41.2%であった。³⁾

〔臨床成績〕

国内で実施された臨床試験成績の概要は下記のとおりである。
(国内発表文献集計による。)

疾患名	有効率(やや有効以上)	
中毒(薬物中毒、農薬中毒、金属中毒、自家中毒等)	94.5% (225/238)	
妊娠中毒	妊娠悪阻、晚期妊娠中毒症	77.9% (148/190)
	妊娠悪阻に対する二重盲検比較試験 ⁴⁾ によって本剤の有用性が認められている。	

〔薬効薬理〕

1. 薬理作用

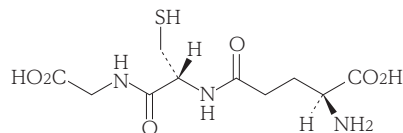
グルタチオンは、ラットのメチル水銀中毒⁵⁾、ヒトの鉛中毒⁶⁾、ヒトの有機燐剤中毒⁷⁾、マウス及びラットの亜硫酸ガス中毒⁸⁾を改善する。

2. 作用機序

グルタチオンの生物学的な活性は、作用機構の面からSH基の酸化還元反応が関与する反応と、酸化還元反応とは無関係に関与する反応とに大別され、後者は、助酵素的な役割を果たす反応、メルカプトール酸の生成及びその他の解毒機構への関与、SH酵素又はその他の細胞成分の保護あるいは活性化、細胞分裂・細胞の増殖等における何らかの役割を果たすとされている。⁹⁾

〔有効成分に関する理化学的知見〕

一般名：グルタチオン (Glutathione)
化学名：(2S)-2-Amino-4-[1-(carboxymethyl)carbamoyl-(2R)-2-sulfanylethylcarbamoyl]butanoic acid
分子式：C₁₀H₁₇N₃O₆S
分子量：307.32
融点：約185℃(分解)
構造式：



性状：グルタチオンは白色の結晶性の粉末である。水に溶けやすく、エタノール(99.5)にほとんど溶けない。

****【包装】**

タチオン錠50mg

PTP：120錠（15錠×8）、600錠（15錠×40）

タチオン錠100mg

PTP：120錠（15錠×8）、600錠（15錠×40）、
1050錠（21錠×50）

タチオン散20%

バラ：100g

【主要文献】

- 1)奥田邦雄 他：第53回日本消化器病学会総会, 名古屋, 1967
- 2)Ashida, S. et al. : J. Takeda Res. Lab. **30** (3) : 524, 1971 [TA-03497]
- 3)高橋忠男 他：Radioisotopes**17** (1) : 9, 1968 [TA-03496]
- 4)村尾昭俊 他：産婦人科の世界**26** (10) : 1153, 1974 [TA-0252]
- 5)小川栄一 他：災害医学**15** (3) : 222, 1972 [TA-0241]
- 6)Nakao, K. et al. : Clin. Chim. Acta. **19** : 319, 1968 [TA-2744]
- 7)工藤尚義：日本農村医学会誌**21** (3) : 340, 1972 [TA-0242]
- 8)大島秀彦 他：診療と新薬**7** (8) : 1487, 1970 [TA-0240]
- 9)早石 修 他：グルタチオン研究の進歩. 診断と治療社：1-37, 1969 [TA-0237]

***【文献請求先】**

日本ジェネリック株式会社 お客様相談室

〒100-6739 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

TEL 0120-893-170 FAX 0120-893-172

®登録商標

*販売元



日本ジェネリック株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

製造販売元



長生堂製薬株式会社
徳島市国府町府中92番地